

看護部だより

ひまわり



2014年7月

発行責任者：小牧加代子

Vol. 31

福井大学付属病院への施設研修に参加して ～新看護方式「PNS」研修～



今年度、看護部の看護体制が固定チームナーシングから「P N S」（パートナー・ナーシングシステム）へ移行したということもあり、5月20～22日師長3名、主任2名で福井大学病院に研修に参加させていただきました。「P N S」看護方式を導入し3年目を迎える福井大学病院は全部署が導入していました。経験年数、勤務体系（正勤・パート・短時間看護師）を問わず、パートナーシップを発揮し定時刻での帰宅を可能にしていました。なかでも3時間短縮勤務の方もやりがいを持ってイキイキと仕事をされているのが印象的でした。勿論これまでには苦難を幾度となく乗り越えてきて、今があるとP N S開発者の上山師長が語っておられました。

就労時間内に決められた仕事を終えるというごく当たり前のことが、なかなか難しいと決めつてしまいがちな現実ですが、"補完"体制が構築されることと、リシャッフルで残務が可視化できること、お互いを認め惜しまず教え合うことつまり、"与える心""自立・自助の心""複眼の心"の3つの心＝「マインドの心」をしっかりと定着させ、パートナーシップを発揮することこそ、成功の鍵を握っていると考えます。リーダーの育成をはじめ、推進委員会の発足の是非やマインド研修の検討等、まだまだ多くの課題がありますが、PNS導入後、数か月しかたっていない部署もある中で、様々な問題と直面しながらも、ゆるぎない強い意志を持ち続け、P N Sの浸透と定着に向けて着実に取り組んでいかなければならぬと強く感じました。

4東病棟 久保師長

お知らせ

脳卒中リハビリテーション看護研修について



皆さん、鹿児島県の脳卒中患者の割合をご存知ですか？鹿児島県は日本平均の1.5倍も高い罹患率となっています。鹿児島県でも脳卒中予防に対する取り組みが行われ、地域の方々にも脳卒中予防に対する認識を高めていただこうという動きがあります。

脳卒中治療において当院は川薩地区の中核となる病院です。患者さんに関わる看護師もより質の高い看護が求められます。そこで、今年度より「脳卒中リハビリテーション看護研修」としてコアメンバーを育成する目的で研修を企画しております。9月・10月の土曜午後より3回シリーズで急性期・回復期・維持期の看護について医師や薬剤師、セラピストなどに講師依頼し研修を行う予定です。

詳細が決定次第またお知らせいたします。
集中的に研修を行うため、期間や研修時間は長くなりますが…脳卒中リハビリテーション看護に興味のある方は是非参加をお願いします。

脳卒中リハビリテーション認定看護師 福永副師長

新人職員一泊研修

5月24日・5月25日 「霧島自然ふれあいセンター」

急性期ローテーション研修 新人看護師 野元

霧島自然ふれあいセンターで一泊研修が行われました。今回の研修では看護師・PT・OT・ST・栄養士・放射線技師・事務など、医療に携わるさまざまな職種の方々が参加し、自然に囲まれた施設で、共に協力してご飯を作ったり、レクレーションを行ったりしながら交流を図ることができました。

自然の中で身体を動かしたり食事をしたりなど、いつもの生活とは違った環境の中で過ごし、気持ちの面でも気分転換ができました。

夜の座談会では今の自分達の感じている思いや悩みについて話し合いました。人間関係や仕事のことであったり、自分だけではなく皆も同じように感じていたことを知り、安心する部分もあり、もっと頑張ろうという気持ちになされました。先輩方からも今までの経験談やアドバイスを頂き、これから仕事を生かしていくたいと思いました。

今回の研修を通して、一つのことに皆で取り組んだことで、達成することの大変さや相手のことを考えて行動する意識を改めて考え直す機会となりました。これから仕事をしていく中で、相手のことを考えて行動ができるように心がけていきたいです。

総合リハビリテーション 新人 上美

今回、新人一泊研修に参加し、大きく三つのことを学ぶことができました。

一つ目に時間厳守することです。今回の研修がスケジュール通りにならなかった原因として各自が時間の確認ができなかつたことがあります。時間を確認しながら行動出来るように、時間管理が大変重要であると感じました。

二つ目にタイムスケジュールの立案・実行・再案する事です。上記の時間の確認をしながら行動が出来なかつたことも原因として考えられます。スケジュール通りに出来なかつたとしても、迅速にスケジュールの立案をし、臨機応変に対応していくことが重要であると考えられました。

三つ目に他職種との連携です。今回の研修は他職種と合同でグループワークを行う機会が多くありました。グループワーク中に上手くコミュニケーションをとることができないことも多々ありました。しかし、患者さんの状態を知るために、各々の専門的な知識を他職種へ伝える必要があり、他職種との連携はとても大切であると感じました。

今回学んだことを活かして、患者さんの事を第一に考え、より充実した行動がとれるように勤務していきたいと思います。

調理風景

夕食

コロッケ・豚汁・白玉だんご

3階西病棟プリセプター 神野

今回はプリセプターの立場として参加させてもらいました。研修を通して、心身ともにリフレッシュする機会となったと同時に、集団の中で何かを成し遂げる難しさと、反面達成したときのやりがいを感じることができました。

大勢の中で集団行動を行っていく事や、集団をまとめしていくことは難しいことだと思いますが、それぞれが自分の役割意識を持って行動していく事で、より団結した集団行動をとることが出来るのではないかと感じました。

一泊研修を通して役割意識を再確認することができました。看護師として、各部署と報・連・相を密に行い、チーム医療に携わっていきたいと思います。プリセプターとして、新人看護師たちの思いを聞くことを大切にしながら、サポートしていきたいと思います。



集合写真（霧島ふれあいセンター）

3階東病棟教育委員 田代

霧島自然ふれあいセンターにて新人一泊研修が行われました。看護部・リハビリ科・栄養科・放射線科・事務職員の新人職員と、教育担当者の計40名が参加しました。

1日目は自己紹介や事例検討、ウォークラリーを行い、2日目はゲームやペーパークラフトといったグループワークを行いました。

40名という大人数でしたが、食事の準備、グループワークを通して、コミュニケーションを図り互いに協力する姿勢がみられました。初日に実施した座談会では、新人職員の悩みや仕事でうれしいと感じたことなどを話し合いました。それぞれに、社会人として、また医療従事者として学ぼうとする姿勢を感じる時間でもありました。

今回の経験と交流を活かして、互いに信頼関係を築き、臨床の場での他スタッフとの連携に活かしていくことを期待したいと思います。



ウォークラリー

事例検討グループワーク

院内研修

フィジカルアセスメント

5月3日に集中ケア認定看護師の猿楽看護師を講師に迎え、フィジカルアセスメントについて研修が行われました。ウォーキング・ランニングの看護師を対象に15名が参加しました。フィジカルアセスメントとは何か、から講義が始まり、アセスメント能力、バイタルサイン、解剖学、生理学といった基礎知識を振り返る内容でした。循環器・呼吸器・意識に視点をあて、総合的なアセスメントが必要であることや、代表的な病態に関連した観察ポイントを取り上げながら講義が進められました。

基本的な知識であるからこそ、繰り返し学び、知識を深め、看護師一人一人の意識を統一していくことが重要であると感じました。

3東病棟 田代

6/12 キャリアレベル
1年目

看護管理

今年度よりキャリアレベル（1年目）となった看護師を対象に、看護管理とは・5つのマネジメント能力・看護倫理とは・看護者の倫理綱領・臨床心理と患者の自己決定支援といった内容を長井副看護部長より講義して頂きました。今回の講義で自身の看護観を考えてもらい、看護師として仕事に対する姿勢や向き合い方が看護観に通じると学ぶことができたのではないかでしょうか。また、普段はあまり考える機会のない病院の経営や財務についても学び、改めてキャリアレベルとしての立場や視点の持ち方が理解できたのではないかと思います。今回学んだことを活かし病院の中心的存在として活躍してくれることを期待したいと思います。

3西病棟 福圓

6/17 ポップ研修

看護研究の基礎

看護研究についての講義の中から、今回は看護研究の考え方について、村尾師長から講義がありました。内容として、①看護研究に取り組む前に、②看護研究の考え方、③看護研究のテーマ設定、④先行文献の文献検索方法⑤研究の構成、⑥看護研究の倫理的配慮、⑦まとめから、今回は特に文献検索と倫理的配慮に重点をおいた講義でしたが、村尾師長が周りのスタッフと協力しながら行った看護研究の体験談がとても興味深く、改めて看護研究の面白さ、奥深さを考えさせられた研修となりました。

4東病棟 林

6/24 ジャンプ研修

臨床実習指導の基礎

看護基礎教育における臨地実習の意義及び実習指導者の役割が理解できることを目標に、青年心理・臨地実習指導の意義、実習指導者としての基本姿勢、看護学生の特徴等を、実習指導者講習会修了者の平師長の講義が行われました。研修ではグループワークを行い、看護学生に対するイメージや、自分が学生の時にどうだったか、良い臨床指導者とは、など研修生が過去の学生時代にフィードバックして活発な意見交換が行われました。

研修後のアンケートでも、学生に対して学生の立場・気持ち（思い）の再確認ができ、指導者としての対応・態度のあり方を見直す事ができたようでした。

今後、看護学生の実習が意義のあるものとなるように、スタッフへの協力や職場環境の調整などを行えるような臨床指導を心がけ、良い指導者をめざしていきたいという豊富も聞かれました。

OP室 宮内

外来 吉永

NST専門療法士研修を受講して

今年病棟のNST・褥瘡対策部会のリンクナースとなり、NSTの基礎的な知識や考え方、視点などを学習したいと思い、今回のNST専門療法士研修を受講しました。

研修では栄養管理や薬剤の管理、摂食・嚥下機能、疾患や治療、病態別の栄養管理など多方面・多職種の方々より講義をしていただきました。栄養管理については、栄養指導など自分自身の理解が曖昧であり、管理栄養士の方に任せっきりでした。疾患により患者の栄養管理方法は様々であり、今回の研修で専門的知識を深め、患者・家族が退院後の生活に不安なく過ごすためのサポートができるようになりたいと思いました。また、他部署でのNSTカンファレンス風景などを見学する機会がありました。今後は自部署でのNSTカンファレンスにも積極的に参加しリンクナースとしての活動の場を広げていきたいと思いました。

3東病棟 勝山

院外研修

接遇研修に参加して

外来 平師長

講師の高橋氏は東京ディズニーランドホテルの接遇担当として接遇研修に携わりその後、看護分野に転職（ヘルパー取得）した経歴のある方で、介護分野や東京ディズニーランドホテルの接遇教育での経験や事例を通して研修が進められました。

東京ディズニーランドホテルでの接遇研修もグループワークを中心として行われマニュアルをただ憶えて習得する研修でなく、自分たちで考え、グループでディスカッションすることで、「接遇に対する考え方や行動が身に付き行動につなげていくことが出来る」と言われていました。「接遇について自分で考える」ことが一番重要であると感じる事ができました。今後の研修でも「自分たちで考える」ことを大事にした研修が必要を感じました。

ミニナラティブ

4東病棟 皮籠石

私は去年の8月に市民病院に入職しました。印象に残っているのは、患者さんの家族からの感謝の言葉です。今まで急性期の病院でがんの患者さんが入院してきても、話を聞くことができずにいました。配属先の4階東病棟は循環器・呼吸器病棟であり、呼吸器で入院される患者さんは、肺がんの化学療法を目的とする方が多いです。そんな中で、初めて受け持たせもらったのも、肺がん術後の患者さんでした。自分自身化学療法の知識が少なく、まずは患者さんに迷惑をかけないように、話をよく聞いて一つ一つメンバーに確認と相談をして対応をするようにしました。患者さんと一つ一つ確認をしていくことで、信頼関係を築くことができ、その後退院されました。

その後、転移が見つかり再度治療目的で入院。状態は悪く、日に日に悪化していく患者さんを見て、私は勤務時に声をかけるだけでした。最後の日は勤務でしたが、受け持ちではなかった為、部屋には行けず、気づいた時にはお亡くなりっていました。

私は生きてるうちに、会いに行けなかったことが心残りで、患者さんに対して心の中で謝ることしかできませんでした。そんな時お会いしたこともない息子さんと娘さんに呼び止められ「よくしてもらって、ありがとうございました」と言われた時に、家族の方がつらい状況であったにも関わらず感謝され、関係作りからケアが行えていたのだと感じ、少し救われた気持ちになりました。今後も患者の訴えを傾聴できるようして対応していきたいと思います。

マイブーム

回復病棟 別府師長

6月中旬のある日、急に「ところてん」が食べたくなりました。ところてんを買ってきて、ただ普通に食べたのですが、それがとてもおいしいと感じました。冷たさ・歯触り・歯ごたえ何ともいえない。ただただそれだけなのですが…。それから毎日1-2パックのところてんを食べています。関東地方みたく黒蜜でデザートとして食べる事はないですが、黒酢や三杯酢・青しそドレッシング・梅酢・酢味噌など、味に変化をつけながら食べています。どの部分にはまってしまったのかは全く不明ですが、食べ始めて3週間以上経ますが、飽きる気配が全くありません。大きく変化をつける事もなく、冷たい「ところてん」をただ食べるだけです。まさしく、今旬な「マイブーム」です。皆さんもご賞味あれ。



編集後記

今年の日本列島は梅雨前線と台風7号・8号と立て続けに見舞われ大きな被害をもたらしました。先日の8号は過去最大級の大型台風の情報に当院でも緊急会議や対策が講じられ伝達されました。我が家でも植木の片づけやシャッターを閉めたり、カセットコンロ・蠅燭の準備、やや興奮気味で食料品の買い出しに行きました。ところが、スーパーのパンやカップめんの棚に商品が並んでいないのです。これにはビックリ！この状況を見て、情報に左右されている自分や世間の人たちに引いてしまうと同時に冷静を取り戻しました。今回の台風は肩透かしを食らった感じでしたが、「備えあれば憂いなし」何事も日頃からの準備や対策が必要であることを改めて感じました。九州南部の雨明け宣言が発表されました。今後は、“熱中症”に注意しましょう！（小牧）

総務学会九州地方学術集会に参加して

3階西病棟 溝口

5月24日に鹿児島市で開催された九州地方会に参加しました。講演では皮膚の解剖生理、キンケア、褥瘡予防におけるポジショニングの重要性などを学ぶことができました。また、一般演題では栄養管理、周術期や整形外科領域、医療機器関連褥瘡などの発表がありました。

当病棟では治療上の安静、疼痛、周術期などからの食欲低下や「食」に対する認知力が低下する患者さんも多く、食事を認知する援助の大切さ、家族や多職種との連携の重要性を学び、経口摂取への援助は生きがいとなり、全身管理・褥瘡予防へのつながりについて考える機会となりました。

学会での学びをPNSの取り組みの中より身近なNST・褥瘡対策を取り組むことができるようコアメンバーとして活動していきたいと思いました。



平成26年度 看護部懇親会について

H26.8.6(水)「H26年度看護部懇親会」開催予定！

今年度は、レストランカトレアを会場とし、食事会を計画しております。皆さんに楽しんで頂けるような出し物や、豪華景品も準備します。

多くの方の参加をお待ちしております。

*開催日が近づいてきましたら参加者の人数把握をさせて頂きます。

懇親会の詳しい情報は、7月中旬に別紙にて各部署へお知らせいたします。

松元副師長

